

学内マップ

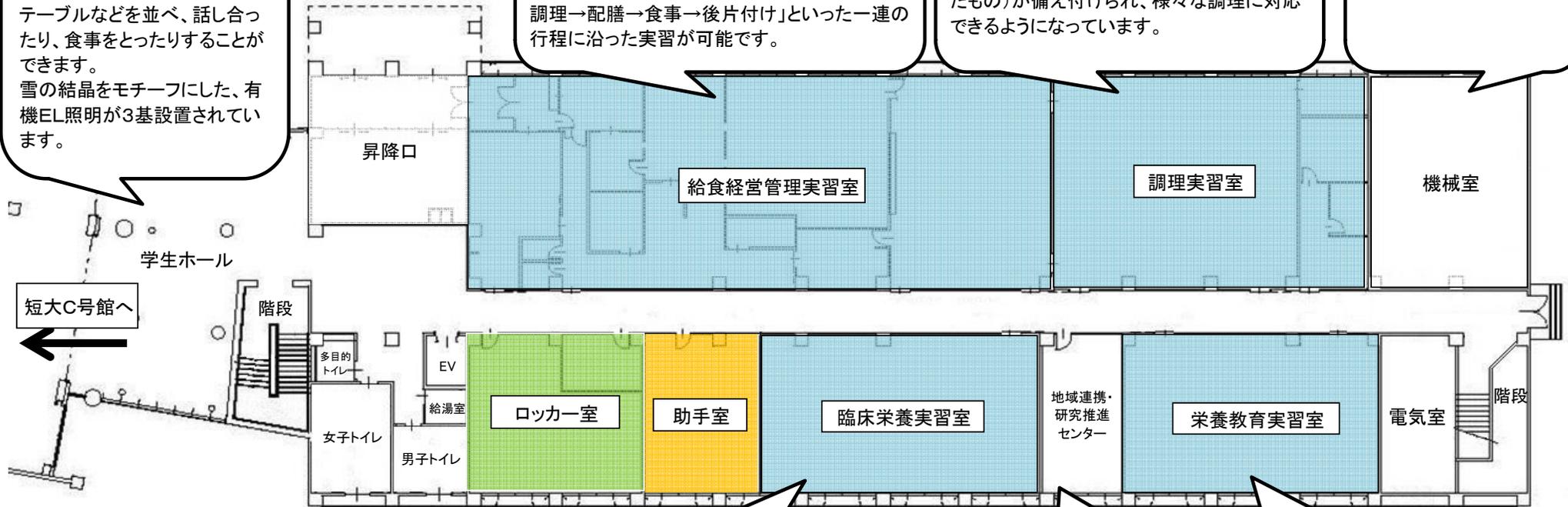
D号館 1階

短大と共用する部分です。3階までの吹き抜けとなっていて、開放的な空間になっています。テーブルなどを並べ、話し合ったり、食事をとったりすることができます。雪の結晶をモチーフにした、有機EL照明が3基設置されています。

給食などの大量調理に関する実習を行う施設です。複数の部屋から構成されているのが特徴で、調理するだけでなく、「食材の搬入→下処理→調理→配膳→食事→後片付け」といった一連の行程に沿った実習が可能です。

調理を行うための施設です。各調理台には、ガスコンロやコンビネーションレンジ(ガスオープンと電子レンジが一体化したもの)が備え付けられ、様々な調理に対応できるようになっています。

ペレットボイラーや雨水の貯留タンクなどがあります。

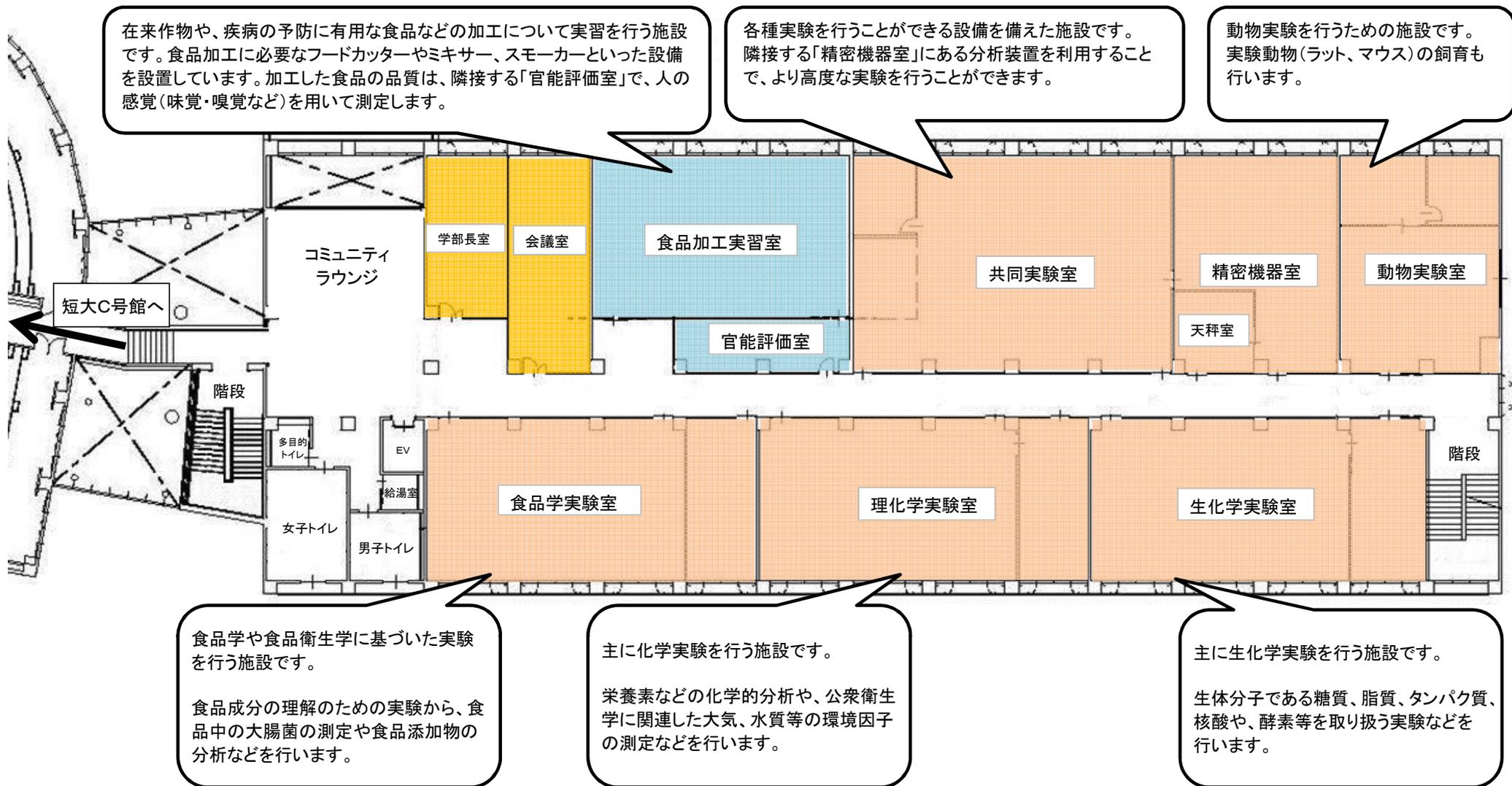


病院や福祉施設などでの実習を想定した施設です。ベッド、要介護者等に対する食事介助用器具、計測・検査用の器具などを整備しています。

栄養と健康の研究に関するシンクタンク機能や栄養に携わる方々に対する生涯学習の拠点機能の実現のため、地域連携・研究推進センターを設置しています。

栄養教育に関する実習を行うための施設です。個々の対象者に応じた栄養教育プログラムの作成、実施、評価などを行います。パソコンや、栄養教育用の食品模型などを整備しています。

学内マップ D号館 2階



学内マップ D号館 3階

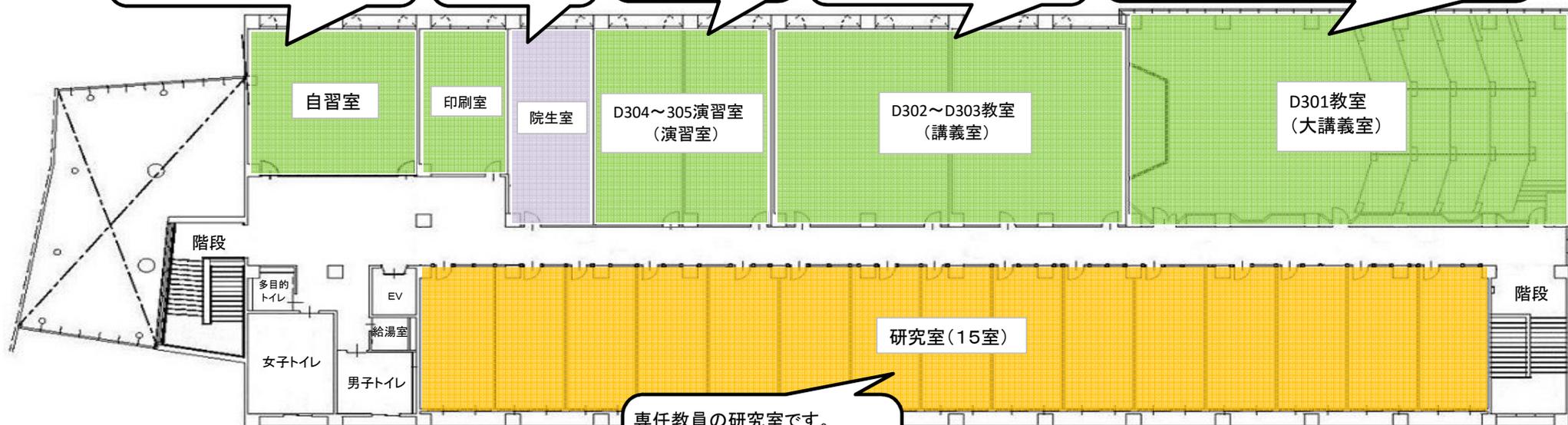
学生が自習するための施設です。
自習用のパソコンなどを設置しています。

院生1人に1台
パソコンを設置
しています。

少人数での演習を
行う演習室です。

定員約60人の講義室です。
大学における講義については、
主にこの講義室で行います。

定員約200人の大講義室です。
大学の全学生と教員を収容することが可能です。
講義だけではなく、地域開放用にも利用します。



専任教員の研究室です。

3年後期から始まる卒業研究の
ゼミ室としても使用します。

3階は、主に講義室や研究室が並ぶフロアです。
他の階とは異なり、木材を多く取り入れたつくりになっています。

<その他の特徴>

- 省エネのための取り組み
 - ・太陽光発電設備(出力11kW)を設置
 - ・ペレットボイラーの導入
 - ・雨水の再利用
 - ・無散水消雪システムの導入
(短大正面玄関～大学正面玄関まで)
- 地産地消の取り組み
 - ・木材の一部に県産木材を使用
- 有機EL照明の導入

山形県立米沢栄養大学の校舎について

◇ 校舎の概要

設置場所：米沢女子短期大学の敷地内(図書館、体育館、食堂等は米短と共用)

構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造3階建

延床面積：4,951.51㎡ 1階：実習室、学生ホール等

2階：実験室、食品加工実習室等

3階：大講義室、研究室、演習室、自習室等

工期：平成24年10月から平成25年10月まで

建設費用：約13億円

特徴：有機EL照明、太陽光発電装置(壁面設置)、ペレットボイラー(給湯・床暖房用)、トイレ洗浄水の雨水利用、外構には無散水消雪システムを導入

(正面)



(裏面)



(玄関)



(学生ホール)



(大講義室)



(給食経営管理実習室)



(食品加工実習室)



(栄養教育実習室)

